社会学部教育文化学科井上ゼミ　ぐんま国際アカデミー訪問報告

視　察　先：ぐんま国際アカデミー

住所：〒373-0033 群馬県太田市西本町 69-1

見学実施日：2011 年 2 月 10 日（木）　午前 9 時 30 分から正午まで

参加の目的：イマージョン教育の研究のため

視察先の対応教員：（施設案内）半田聖子先生、

（学校運営等の説明）校長　今井優先生

（イマージョン教育の説明）井上春樹先生

（進学問題、高等部新設の説明）松尾明朗先生

研修内容　：英語を教えるのではなく、英語で教えるというイマージョン教育の実践をおこなっている、ぐんま国際アカデミーの小学部と中学部の授業、および、学校施設・設備を視察した。また、効果的な英語運用能力の育成や、保護者対応問題、進学問題、高等部新設の問題などについて、さまざまな情報や先生方の考えを聴く機会を得た。

参加者名　：（教員 1 名）井上智義、

（学部学生 5 名）保木彩美、長野麻紀、関原理沙、高岸茉莉子、谷口由佳、

合計 6 名

所属　　：同志社大学社会学部教育文化学科

参加者感想

高岸：私は今回の訪問を通じて、現時点での日本社会の課題は、このような教育課程を経た生徒をどれだけ増やすかではなく、どれだけ社会に受け入れるかという点にあることを感じた。私はこの学校では、日本国内で外国人を育てているという印象を否めず、彼らはこの先も日本の社会にはなかなか馴染みにくいであろうと思った。なぜなら今の日本では、大学受験のための画一的な教育をせざるを得ないために、そのような全く違った型の生徒を受け入れる体制が整っていないのである。特殊な環境で育った生徒は海外進出すればいい、というだけでは一向に日本の教育体制は変わらない。そのため私は、大学はもっと門戸を広くし、様々な背景を持った人材を育てる機関へと変革する必要があると思う。人材の多様化は、今後日本が国際化を進めて行く上で避けては通れない。こういったイマージョン教育学校の設立は、日本の教育体制を考え直す良い契機になると思った。

↑学校の内部風景①　生徒が作った英語の掲示物

谷口：校長先生や教員の方々と直接お話をすることで、自分が持っているものとはまた異なる教育観に触れることが出来ました。また、学校内も隅々まで案内して頂き、アメリカンスクール的校舎で子ども達が伸び伸びと学習している様子を直に見ることで、自分のイマージョン教育像も変わりました。ぐんま国際アカデミーのこれからの展望なども聞かせて頂き、考えさせられることも多く、今も課題について自分なりに考えを出してみたりしています。バイリンガル教育や異文化理解を学ぶ者として貴重な体験をさせて頂きました。

関原：ぐんま国際アカデミーの見学をしてもっとも印象に残った事は、イマージョン教育を実践しようとする先生方の強い気持ちでした。学校内の会話はもちろん、掲示物や配布物も徹底的に２言語がつかわれていることに少し驚きましたが、イマージョン教育ではどちらの言語も同等に扱わなければならないということを実感しました。また異文化理解については違いを受け入れられることと、自分の意見を主張することが必要であり、異文化と接するだけではなく子どものころから教育しないと身に付かないものだと学びました。私はイマージョン教育と異文化理

解を同じようなものだと考えていたのですが、見学後にそうではないのかもしれないと気付きました。卒業後の子どもたちの進路や考え方にどのような影響を与えるのか楽しみです。

↓学校の内部風景②　先生との会話はもちろん英語です

長野：イマージョン教育については大学の講義の中で習ったことあり、外国語を学ぶのに効果的な教育法であるということで興味を持っていました。今回のぐんま国際アカデミーの見学を通し、実際どれくらいの語学力がつくのか、また特殊な教育であるゆえの問題点はないのだろうかといった点を確かめたいと思い見学に臨みました。

実際見学を通じ、生徒たちが英語を勉強としてではなく、一つの言語として自然に使用していた点が印象的でした。また教育法以外にも、教室が壁で仕切られていない、授業と授業の間にチャイムが鳴らないなど、一般の日本の学校と異なる点が多々見受けられ、外国の学校に来たような感覚を受けました。小中高一貫校であるぐんま国際アカデミーから卒業生は出ていませんが、将来卒業生がどのように活躍するのかといった点が興味深いです。

保木：異文化理解に必要なこと。それは井上春樹先生いわく「相手に意見を伝えること」「違いを受け入れること」の二つだそうです。しかし、これはイマージョン教育を行っているぐんま国際アカデミーでも教育していくことが難しいようです。異文化に触れることというのは、外国人と接触することではありません。出身国は関係なくそれぞれの個々が持つ文化、つまりは隣人を理解するということなのです。これは今後どの分野の教育においても認識しておくべき大切なことだなと思いました。

イマージョン教育を行っている学校の見学はとても刺激的で勉強になりました。しかし、まだ出来て間もない学校のため、小学校から高校まで一貫してイマージョン教育を受けた子どもの事例がありません。壁のない教室、開始ベルのない学校、授業はすべて英語で行う。このような環境を 12 年過ごした生徒がどのような考えを持ち、どのような進路を希望するのか。この結果が今後のイマージョン教育の在り方に大きく影響してくると思います。今回の訪問では現在のイマージョン教育を知る上においてとてもよい経験になったと思います。

最後にゼミの先輩も交えて全員でパシャり↑　学校の入口にあたるところです。

ぐんま国際アカデミーのみなさん、本当にありがとうございました！！